

自己評価報告書(最終報告)

報告者

社会系コース／伊藤 直之

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

テーマ「異学問分野との協働による社会科教育内容開発」
社会科教育、特に小学校社会科教育は、その起源から「多学問性(multi-disciplinary)」を特色としている。そこで、本研究においては、工学者、経済学者などとの連携を通して、諸外国の動向も参考にしながら、「防災」などの今日的なテーマを基軸とした小学校社会科教育の新しい内容構成を模索し、協力校における授業実践を通して改善を図る。

2. 点検・評価

「異学問分野との協働による社会科教育内容開発」という課題に応えるために、工学者、経済学者と連携して、科研費(基盤C)を申請したが、残念ながら採択には至らなかった。次年度も引き続き申請したい。
一方、日韓研究者による社会科教育史調査(基盤B)に分担者として加わり、2013年4月採択されることとなった。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

兼業先の大学における学部生対象の授業において、本学における教員養成の取り組みなどを紹介し、希望者にはパンフレットを配布することを通して、本学大学院のPRを行う。

2. 点検・評価

兼業先の甲南女子大学において、学部3年生を対象に、本学における教員養成の取り組みなどを紹介し、パンフレットを配布して、本学大学院のPRを行った。また、進路に悩む4年生(昨年度受講学生)に対して、講義時間終了後も相談に応じ、教職を志すための選択肢として、本学大学院の説明会や募集要項を配布した。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①第4学年のクラス担当教員として、引き続き生活の実情や進路希望等の把握に努めるほか、就職試験対策に協力するほか、副免教育実習の取り組みを可能な限り参観し、叱咤激励したい。
- ②副免教育実習の期間中、大学において教材研究や指導案作成の相談を受け付ける。
- ③卒業論文および修士論文指導において、適確且つきめ細やかなアドバイスを心がける。

2. 点検・評価

- ①第4学年のクラス担当教員として就職試験対策に協力した。教員採用試験において数多くの合格者を輩出した。
- ②副免教育実習の期間中、附属学校への訪問はもとより、大学において夜間の相談を受け付けた。
- ③卒業論文および修士論文指導において、社会科教育にかかわる基礎的な文献の購読を通して、研究の方法論を習得させるようにした。
- ④大学院生に対して就職支援ガイダンスへの出席を強く推奨した。
- ⑤硬式野球部顧問教員として、第64回四国地区大学総合体育大会に係る委員会に出席し、準備に向けた分担事項等を確認した。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

- ①科学研究費補助金に基づく、諸外国の社会認識教育およびシティズンシップと教科の関係性についての調査。
- ②新学習指導要領にもとづく小学校社会科、中学校社会科地理的分野の授業開発と提言。
- ③著書および論文業績の積み増しを図る。

2. 点検・評価

- ①科学研究費補助金(分担者)に基づき、諸外国、特にイギリスや韓国の社会認識教育およびシティズンシップと教科の関係性についての調査を実施した。
- ②新学習指導要領にもとづく中学校社会科地理的分野の授業開発と提言を、鳴門社会科教育学会の自由研究発表を通して行った。
- ③論文業績1編を上梓した。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- ①科学研究費補助金をはじめとする外部資金の獲得
- ②兼業先における本学大学院のPR
- ③教員免許状更新講習の開設

2. 点検・評価

- ①科学研究費補助金を申請し、分担者として加わった「基盤研究B」が採択された。
- ②兼業先の甲南女子大学において本学大学院のPRを実施した。
- ③教員免許状更新講習を開設して、8月に実施した。
実地教育専門部会委員として、瀬戸小学校、北灘東小学校を訪問し、インターンシップ受け入れの謝意を表した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

- ①附属小学校・中学校の研究大会への指導助言。(附属学校)
- ②徳島県小学校教育研究会社会部会・中学校教育研究会社会部会への協力。(社会連携)
- ③諸外国の社会科教育研究者との関係強化。平成24年度我が国への招聘。(国際交流)

2. 点検・評価

- ①附属小学校研究大会の小学校4年生対象の授業において、共同研究者を務めた。
- ②徳島県中学校教育研究会社会部会、とくに地理部会におけるパフォーマンス課題の設定と知識の構造図との関連について相談に応じた。
- ③ロンドン大学のDavid Lambert教授を、11月に日本に招聘し、日英研究交流の礎を築くことができた。その成果として、教員養成モデルカリキュラムの発展的研究事業による2013年3月の渡英の際に、ロンドン大学における教員養成の調査に対して積極的な協力を賜ることに結実している。また、第5回中日教師教育学術研究集会において、北京師範大学教師教育センターの若手研究者らと意見交換し、今後の交流継続を約束した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

第5回中日教師教育学術研究集会における発表、司会、懇親会準備等々を分担した。
また、教員養成モデルカリキュラムの発展的研究事業における外国調査として、2013年3月にロンドン大学教育研究所を訪問し、当大学における教員養成システムや、イギリスにおける教師スタンダードを巡る動向について調査することができた。
硬式野球部顧問教員として、第64回四国地区大学総合体育大会硬式野球競技(於:オロナミンC球場)に係る準備に尽力している。